



## メーリングリスト ユニセフ子どもネット

## オンライン インタビュー企画 第3弾

### ユニセフ・スタッフ

# 山口さんにインタビュー！



みなさん、こんにちは！ネットワーカーの須藤沙織です。今回はヨーロッパ地域事務所の山口郁子さんが、メーリングリストで私たちからの質問に答えてくれました。インタビューでのようすを、私たちがみなさんにご報告します！

ユニセフといえば、まずはフィールドでの仕事が思い浮かぶけれど、山口さんはジュニアで広報官の仕事をしているんだって。ユニセフっていろいろな仕事があるんだね。好奇心いっぱいの田のぞみです。

### 山口郁子さんからのメッセージ

Salut ! (サリュー) みなさん、スイスのジュニアからこんにちは！ユニセフというと、みなさん、アフリカやアジアの国々で働く姿をまっ先にイメージされるのではないかでしょうか？もちろんユニセフの仕事の中心はフィールド（実際に支援活動を行っている開発途上国）での活動ですが、それらがスムーズに、そしてよりよく行われるために、ニューヨーク本部をはじめとして、ここジュニアでも、たくさんのユニセフのスタッフが働いています。今回はみんなにフィールド以外のユニセフの仕事を紹介できればと思っています。

私が働くヨーロッパ地域事務所は、日本ユニセフ協会をはじめとする、世界37カ国にあるユニセフ国内委員会の窓口でもあります。各国の委員会はその国の中で、子どもたちの権利が守られるように活動しているほか、ユニセフのフィールドでの仕事を紹介したり、その活動を支えるという大切な役割を担っています。私たち広報官の仕事は、フィールドで何が起っているのか、ユニセフはそこで何をしているのかを把握し、世界中の

こくないいんかい 国内委員会やマスメディアに発信し、世界の国々にの人々、フィールドで働くユニセフのスタッフ、そしてその国の子どもたちをつないでいくことです。

また、ジュニアには、国連の本部機関がおかれており、国連機関、NGO（非政府組織）の本部も数多くおかれてます。そのためのジュニアは、紛争や自然災害など、緊急の事態に対応する人道支援の中心地でもあります。イラクの戦争やイランの地震など、緊急事態が起きたとき、何が必要か、ユニセフに何ができるか、何をしているのかを発信していくのが私たちの大切な仕事です。

この仕事をして一番楽しいことは、いろいろな人と会えること。みなさんと、メールを通じて会えることを、とても楽しみにしています。

### プロフィール

東京都出身。国際基督教大学教育学部卒業。大学の時、開発教育のテーマで出会い、卒業後、ロンドン大学教育学研究所大学院で学ぶ。

修士課程修了後、NGOで働いていた時に参加した、学校を建てるワークキャンプを通してカンボジアという国とその人びとに出会い、この国で働きたいと思うようになります。1996年から2年間、その夢がない、国連ボランティアの識字専門家としてブンペ恩のユネスコ（国連教育文化機関）事務所に勤め、農村地帯で主に難聴の人の道支援に携わる広報活動と、世界中のユニセフ国内委員会の窓口としての仕事を担当しています。

たため、当時クーデターなどで治安が悪かった当地を離れ、1998年に巴基斯坦のイスラマバードに家族と赴任。イスラマバードでは日本大使館で、現地のNGOの活動を支援する、日本政府の草の根無償資金協力プログラムを担当するNGOアドバイザーとなる。

3年後、日本に戻ったものの、すぐにジュニアに家族で移動。現在ユニセフ・ジュニア地域事務所のコミュニケーション・セクションで、主に難聴の人の道支援に携わる広報活動と、世界中のユニセフ国内委員会の窓口としての仕事を担当している。

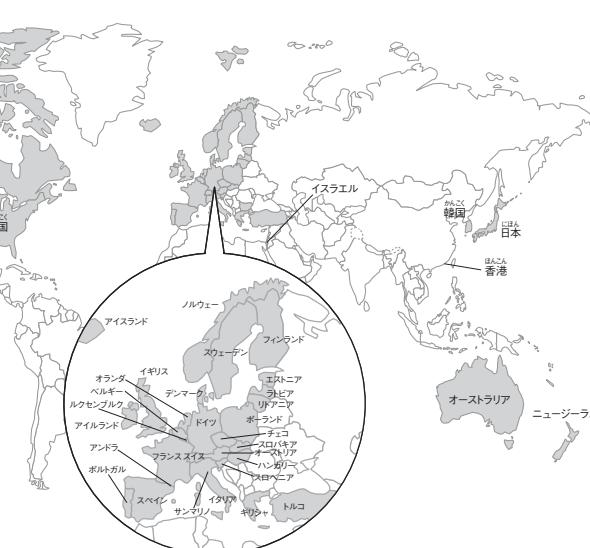
### ●プライベートの山口さんは？

やまぐち パキスタンで育った5歳の娘が一人います。趣味はペットの犬と森を歩くこと、映画を見る、スキーをすること、ピアノを強くこと、旅行をすることです。大学生の時から、アフリカ、東欧、中南米、アジア、と数え切れないとあります。今思うと、そのほとんどが途上国です。カンボジア、パキスタンと現場での活動が続いているので、はじめはジュニアでの生活や仕事をこなしていましたが、現地事務所で働くのはまた違った、グローバルな視点で仕事をできることを楽しんでいます。両方の視点を学んで、遠くない将来、またフィールド（できたら暖かい国）に戻つて、働くことが希望です。

### ユニセフ国内委員会は どの国にあるのかな？

現在世界には  
37カ国（注）にユニセフ国内委員会があります。山口さんがいるヨーロッパ地域事務所は、その国内委員会の窓口の役割をしています。ユニセフ国内委員会はユニセフと協力協定を結んだ民間の団体によって運営されており、世界の子どもたちのようすをその国人びとに伝えたり、募金を集めてユニセフ本部に届けたり、子どもの権利を実現するためにさまざまな活動をしています。

（注）2004年2月現在



山口さん（左端）と共に働いているスタッフ  
©UNICEF/Yamaguchi

### 山口さんのある一日

スイスのジュニアとの時間は、マイナス8時間。みんなが家に帰る夕方頃、山口さんの一日が始まり、眠る頃はあわただしく午後の仕事をこなしています。どんな一日を過ごしているのか見てみましょう。



#### ◆メールを読む

私の一日は、朝にあさつをしたあと、メールを読むことで始まります！今ほんどの仕事は、電子メールを使って行われていますよね。ユニセフも例外ではありません。特にユニセフは、世界中の国々に、それも必ずしも電気通信事情の良いわけではない国と連絡を取りあうので、電話やファックスがなかなか通じないこともあります。また時差もあるため、メールが大切な役目をしています。平均して20~30通、多いときはそれ以上のメールが、こちらの朝の時点で届いています。

#### ◆ニュースをチェックする

日本のメディア（マスコミ）を中心に、その日のおおまかなニュースをインターネットでチェックし、ユニセフや国連にかかわるような何か大切な情報がないかを確認します。

#### ◆電で状況報告

ユニセフの駐日事務所や、ジュニアにあらゆる日本政府代表部など、日本に開かれる機関やオフィスとも連絡を取りあっているので、毎日ではありませんが、電話をして近況報告をしたりします。



#### ◆ランチタイム

ふつうは1時間から1時間半くらいのお休みがあり、夏やお天気のいい日は、目の前にある公園で散歩やランチをします。



#### ◆本部との仕事がスタート

再び仕事ですが、ユニセフの本部があるニューヨークは時差の関係で、こちらの時過ぎごろから動き出すので、ニューヨークとのやり取りはこのころから始まります。世界の何ヵ所かを同時につなぐ、電話会議もあります。

#### ◆ミーティングに出席

私の働いているセクションでは、週に一度は全体のミーティングがあります。専門で、その週の課題や必要な対応などを検討・確認します。また、なにか大きな会議やイベントなどが予定されている場合、それにかかわるスタッフが集まってミーティングをします。

#### ◆メディア対応

週に2回、国連本部で国連に詰めているジャーナリストを対象にしたメディア・ブリーフィングがあります。ユニセフのスブースクマンがユニセフのニュースやメッセージを伝えたり、インタビューを受けたりするので、それについて行き、ジャーナリストと話したり日本のメディアのオフィスに顔を出したりして、情報を集めたり伝えたりします。



山口さんがいつも仕事をしている国連のジュニアオフィス  
©UNICEF/Yamaguchi

Q.ユニセフとその国内委員会の役割の違いは何かですか？  
(秦 聖一郎 18歳)

日本にあるユニセフ駐日事務所は、ユニセフ本体の東京にある事務所です。そして、日本ユニセフ協会は、日本におけるユニセフ国内委員会です。日本には国連のユニセフのプロジェクトはありませんので、ユニセフ駐日事務所の役割は、主に日本政府との協力関係を強化することなどです。もちろんユニセフのスタッフを本部やフィールドから抜いて、シンポジウムなどを開き、政府、メディア、そして国民に、ユニセフの重要課題への取り組みを紹介したりする活動もおこないますが、国内でのアドボカシー（注）活動の中心は日本ユニセフ協会がなっているといえると思います。

（注）アドボカシー…政策提言。子どもたちの権利が守られるように、国民や政府に働きかけること



# やまぐち 山口さんにこんな質問があったよ!!



ユニセフだけではなく、いろいろな場所で経験をつ  
んできた山口さんに、たくさんの質問がありました！

将来現地で働くにはどうしたらいいか」「世界の子どもたちのため  
に何ができるのか」など、ヒントがいっぱいのインタビューでした。

Q 私たち子どもは、同じ世界の子どもたちの情報を得るこ  
とがむずかしいことがあります。情報を手に入れたり、  
大切な情報かどうかをうまく見きわめると重要なこ  
とは何ありますか？（田のぞみ 16歳）

A するとい質問にどきりしました。大切な事ですね。みんな  
さんのメッセージの中で、ユニセフは緊急人道支援の  
心地と書きましたが、国連本部では毎日のように、国連専門機関、  
NGO、政府などが参加して、人道支援や国連のあつかうさまざまな  
会議を開いています。また、国連本部には年に約200  
人のジャーナリストがいて、国連に関するニュースをいろいろ、発信し  
ています。私たち広報だけでなく、こうした会議に出席するスタッフ  
の一人ひとりが、子どもたちの代わりとなって、その声を確実に聞  
いてもらおうように、がんばっています。

私たちが発信する情報は、主にフィールドのスタッフから得ています。  
子どもたちの情報はおとなとの情報にくらべて手に入りにくかったり、問題が見えにくかったりすることがあります。ユニセフのスタッフ  
のフィールドでの大切な役割の一つは、そうした声をひろい、まと  
め、活動に反映させ、国内外に発信することです。ユニセフがその  
現場でどれだけよい活動をし、子どもたちに関する情報を持っている  
かが、ユニセフ全体の情報発信の力になります。

ですから、その国の中で子どもたちにとって何が肝心かを最初に見  
きわめるのは、主に現場で活動しているスタッフです。そして、世界  
各地から送られてくるさまざまな情報の中で、どれを優先するか、ま  
た誰に発信するか効果的なかを検討するのが私たちの仕事です。  
フィールドから送られてくる情報はどれも大切ですが、すべてを同時に  
には発信できない、それは効果的ではありません。ユニセフ全体と  
してのグローバルな視点で、私たちはそのニーズ、緊急性の高さ、ユ  
ニセフの取り組みの深さ、インパクトの大きさなどを見きわめて、適  
切な相手に発信します。

Q 中高生時代はどのように過ごしていたのですか？  
(中津川 有紀 17歳)

A 私は東京にある私立の中高一貫教育の女子校に通っていたの  
で、高校受験はありませんでしたから、6年間、特に中学校一年から高校二年までは、ストレスもなくほんとうによく遊びました！  
当時の私は、具体的な職業としては思い描いていませんでした。進  
路について考えていたとき、「人生にとって大切なことは、どんなこと  
と（仕事）をしていいかではなくて、そのことをして何をしたい  
のか、何を伝えたいのか、何をかなえたいのかが重要だ」ということ  
を聞き、とても共感し、私は何を伝えていきたいんだろう、と自分の



ユニセフのオフィスがあるビルの  
屋上から見えるレマン湖の景色  
©UNICEF/Yamaguchi

核になる、信念のようなものについて毎日考えていたことを覚えていま  
す。世界を争いのない、よいところにしたいとか、学校や社会をもつ  
と子どもたちが住みやすい場所にしたいとか、自然環境保護にも興味  
があるし、といろいろなことに興味があったので、一番やりたい  
んだろう、そのためには何ができるんだろう、と考えると、行きづ  
まつてしまったのを見ています。一方で進路は決めなくてはいけない  
し、大学も決めてはいけない…と、現実には社会のしくみの  
中で決めていかなければならぬ「選択」に、とてもとまどい、また  
不満を持ったまま、ついでに、はんう、せいかいして  
満足を持っていたのも事実です。私は17歳で、まだ本当の世界も知  
らないのに、どこの大学でなにをしたいか決めろなんて、むちゃな制  
度だな、と一人で怒っていたりもしました。ですから、〇〇になりた  
い、という具体的な夢はなかったのですが、自分の信じることを見つ  
けて、それを信していけるおとなになりたい、という想いはあ  
りました。それが夢だったのかもしれませんね。

Q ユニセフで働くには、何か特別な資格や経験が必要ですか？  
(古川 彩香 16歳)

A 一般に、どのポストでも大学院の修士課程以上の学歴が求め  
られることが多いのですが、最近は専門的経験（職歴）も、と  
ても重視されます。必ずしも国際開発の職歴である必要はない、  
例えば、教育担当官なら、教師として働いた経験や、教育関係の仕  
事をした経験など、その内容によっては評価されてポストになるこ  
とがあります。保健担当官はかつてお医者さんだった人もいらっしゃ  
いますが、そうでない人のほうが多いと思います。ポストによっ  
て必要となる経験や学歴は異なりますが、最近はNGOの経験、途  
上国での活動経験も重視されていると思います。

Q 派遣国や仕事内容は、自分で選べるのですか？それとも  
本部からの派遣ですか？（田のぞみ 16歳）

A 私は現在、日本政府がサポートするジュニアプロフェッショナル  
プログラムという制度を利用してユニセフで働いていますが、  
その制度では希望を出すことができます。ただ、必ずしも働く場所や  
機関を選べるわけではありません。しかし、通常2年の任期が終了し  
た後、引き続きユニセフで働きたい場合、ユニセフで募集されるポス  
ト（役職）に応募することができます。その場合は、自分の希望する  
職種や派遣国に自分で応募できますが、そのポストに見合った経験  
や経験がないと、競争が激しいため、合格するのはむずかしいです。  
国連機関全体にいえることですが、近年、財政面でも厳しい状況に  
あり、從来の日本のような終身雇用制度で働けるポストは非常に数  
が限られています。ユニセフでも大部分の人が1年から5年ほどの期  
間つきの契約で働き、またその契約終了時に自分の希望のポストを  
探すという形をとっています。

Q 今までしてきた活動の中で、一番印象に残っていること  
は何ですか？（須藤 沙織 17歳）

A カンボジアで仕事をしたいと思うきっかけになった、青少年  
ワークキャンプを実現したときのことです。

ユニセフでは、フィールドからの情報を重要とし、情報を送るのに  
も、綿密な計画が立てられていることがわかりました。また現場での  
経験が豊富な山口さんの言葉を聞き、考えさせられることが多くあり  
ました。たとえ小さな力でも、子どもの視点から物事を観く見て、今  
できることをしていくことが大切だと思いました。私たちは、いろ  
いろなものを吸収できる今こそ、さまざまな文化、考えと触れ合うこと  
が大切だと思いました。

進路についての話も考えるところが多かったです。日本の教育では  
特に、早く進路を決め、大学を決め、曲がり道のない直線の人生  
が求められているように思います。しかし、ゆっくりと自分の興味あ  
ることをしていき、その中で自然道が開けてくるものだと山口さん  
はおっしゃいました。だから、今あせって、間違いない進路を決め  
ようとするのではなく、積極的に経験し、やりたいことを見つけてい  
こうと思いました。大切なのは、世界のために何かしたい、そのため  
に自分に何ができるかという問い合わせていくことだと思います。

（田のぞみ 16歳）

印像に残ったことはたくさんあります、たとえば、私たちが寝  
泊まりしていた場所には、水がために張った水があるだけで、それを水  
浴び、そしてお手洗いを流すことにいます。夕方、みんな列になつ  
て番番に水を浴びます、かめに張った水は、どのくらい使ったか一  
目瞭然。暑いのでどんどんかうかう、あつという間にになくなってしま  
います。水道の水で自分がどのくらい使っているか、見えませんよ  
ね。それに、際限なく使えますよね。でもかめの水は、なくなってしま  
うと、それいすぐしくに汲みに行くことはできないので、あとの人があ  
ります。だから、最初のころ、日本からの参加者は私を含めて、か  
めをすぐ空にしてしまったのですが、だんだん考えて、みんなが使い  
きれるように、大事に水を使うようになりました。

それからみんなで小さな村に学校を建てているときのこと。最初の  
ころ、日本の参加者は、カンボジアの参加者が、怒けたが怒っていました。  
日本人にくらべて、動きもゆっくりだし、すこし休むし、お昼  
休みが終わってもなかなか戻ってこないからです。でも、日本で働く  
のにおなじうなはやで動いていた日本人は、2・3日でぐるぐるで  
ダウンして病気になってしまいました。照りつける強い日差しと40度  
近く猛暑のなか、とても日本と同じはやで働くことは無理だからです。  
みんな、暑い国には暑い国の中のやりかたと、ベースがあるんだ、  
ということを身をもって知りました。

Q ジュネーブはフランス語圏内ですが、仕事での英語の使  
用頻度はどうありますか？（奥村 久実子 15歳）

A 國連公用語（注）は全部で6つ、そのうち国連の仕事をする上で  
もともと頻度が高いのは英語だと思います。ただ、旧いフランス  
植民地国では、オフィスでもフランス語を使っている、という国がほ  
とんどです。もちろん、ほとんどのスタッフが英語を理解できること  
が基本です。フランス語ができる人と、アフリカの国ぐになどでの仕  
事はむずかしいでしょう。でも、本部など他の事務所とのやりとりも  
があるので、英語ができることは前提条件です。

（注）国連公用語は、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、アラビア語、中国語、日本語、韓国語、アラビア語

Q 私たち子どもができることは何だと思いますか？（田のぞみ 16歳）

A 自分も含め、今わたしたちができることは、あきらめないこ  
と、何をしたいか、何ができるだろうかという気持ちを持続  
開けることだと思います。そして、次に、平和は一人で実現できない  
ので、たくさんの人と話したり、時には議論したり、何ができるか考  
えたりしてみてください。子どもは子どものことや一番よくわかる素  
直で親切な視点を持っていると思います。おとなたちが忘れがちな子ど  
もの目で、ニースや、情報をみつめてください。そして、どうして  
なんだろう、なぜなんだろう、何ができるんだろう、とたくさん疑  
問を持ってください。子どもだけが持てる視点、好奇心、そして時間  
をフルに活用して、そしてその感想や、想いをおとおんじに教えてく  
ださい。おとなはそこから学ぶことがたくさんあると思います。

（須藤 沙織 17歳）

家庭と仕事を両立しながら、自分の夢や信念  
を実現させているバイタリティーのある山口さんはすごいと思いました。ユニセフという、  
フィールドでの仕事のイメージが強くあります。  
そのフィールドで得た情報を伝える大切な仕事  
があることを、初めて知りました。世界じゅう  
のどこで今、民族紛争が起こっています、災  
害があります。貧困と飢え、そして病気で苦し  
んでいる人が大勢います。誰もが平和を望んで  
いるのに、時だけが過ぎていき、取り残された  
人々、逆行しているところもあります。でも、平  
和を望む人がいる限り、不可能ではないと思  
います。そして、それを手助けしている人がたくさん  
いることも、忘れてはいけないと思いました。  
（須藤 沙織 17歳）